



理事長のごあいさつ



理事長：中川原 章
(なかがわら あきら)

地域医療の中での好生館の役割

早いもので、今年ももう年末の気配が感じられるような季節になってきました。アベノミクスによる景気好転や日本を元気づける政策の報道が流れる中で、地域社会の一人一人の生活が本当に豊かになっているのか、まだまだ多くの人にとっては、なかなか実感の持てない状況かと思えます。そのような中、佐賀新聞社が行った先日の世論調査では、県民が県政に対して最も強く期待しているのは、「医療と福祉に関する政策」でした。

好生館は、鍋島直正公によって創設（天保5年）されて以来、181年にわたって佐賀県民の健康と医療を担って来ました。しかし、これまでとこれからの大きな違いは、これまでは幕末以来わが国の人口が著しく増加する時代であったのに対し、これからは人口のピークを過ぎ、急激な人口減少が待った無しに進むことです。したがって、好生館を含む佐賀県の医療機関は、加速度的に進む人口減少社会を直視しながら、県民の健康と生き甲斐を守るためにはどうしたらいいのかを考えていかなければなりません。

国は、このような現実を打開するために、「地域包括ケア」という施策を打ち出しました。これは、これまで別々に扱われていた医療と介護を一体化させ、地域社会の中で、一人一人が健康で生き甲斐のある生活を行うことができるよう、皆で心身ともに支えていこうというものです。

好生館も、国のこのような方針に従い、まずは現在の医療機関との連携をさらに強化するとともに、県民公開講座等の開催を通して、県民との直接対話を一層拡大していきたいと思えます。そして、県民がより健康でかつ生きる喜びを感じられる社会の構築に貢献するために邁進していきます。

平成27年11月